

## 地域の活性化



### 店舗運営委員会の設置

組合員・利用者の意思を反映したふれあい活動の企画と運営のため、店舗運営委員会を設置し、支店を中心としてさまざまなふれあい活動に取り組んでいます。



### ふれあい活動の実施

#### 食農教育

農作物収穫体験や稲作体験、こども食堂の開催など、「JAならでは」をモットーにさまざまな食農教育活動に取り組んでいます。



#### 地域貢献活動

地域の清掃活動や交通安全活動、飲酒運転撲滅運動などさまざまな地域貢献活動を行っています。



### 女性部・青壮年部活動

#### 女性部活動

家庭に眠っている食べきれない食品を持ち寄り必要としている方に寄付するフードドライブを行っています。集まった食品は、NPO法人を通じて管内の子ども食堂などに寄付し地域を支える活動につなげています。その他にもさまざまな活動を通じて、豊かな暮らしを実現するため組織の活性化を図っています。



#### 青壮年部活動

「食」と「農」の大切さを次世代へ伝えるため、小学校での稲作体験学習の支援を行っています。また、地域イベントや勉強会を行い、地域や組織の活性化に取り組んでいます。



### 情報発信の強化

#### 広報誌やSNSを活用した発信

広報誌「ふぁみーゆ」やホームページ、インスタグラム、クックパッドを活用し、「食」と「農」に関するさまざまな情報を発信しています。



#### 支店だよりの発行

地域性のある話題や店舗管内の情報を中心に「支店だよりのゆめ畑だより」を発行しています。担当者向けに研修会を実施し、見て楽しい紙面の作成に取り組んでいます。



特集

# JA筑紫の自己改革

## 地域に必要とされるJAに

JA筑紫は「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として自己改革に取り組んでいます。今後も「地域に必要とされるJA」であり続けるため、持続可能なJA経営基盤の確立・強化とともに組合員の皆さまとの徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組めます。

## 農業者の所得増大・農業生産の拡大



### 新規就農者の育成・担い手支援

#### ちくし農業塾の継続開講

平成23年に開講した「ちくし農業塾」は第12期までに116名が修了し、農産物直売所「ゆめ畑」の出荷者や生産部会の部会員として活躍しています。



#### 行政等関係機関との連携による支援

行政等関係機関と連携し、農業法人等の営農の担い手に対して経営支援に取り組んでいます。



#### TACによる担い手支援

農畜産物の付加価値向上・生産量の拡大を基本にTAC(担い手対応除外)を中心として令和4年度は年間650件の定期訪問を行い、対話を通じて営農相談等に取り組めました。



### 生産コストの低減

#### 土壌診断の実施

生産コストの低減と環境負荷の軽減を目的に令和4年度は土壌診断を167件実施し、適正な施肥施用に取り組めました。

#### 事前予約によるコスト低減

肥料・農薬の事前予約数量の積み上げにより価格交渉を行い、コストの低減を図っています。

### 農畜産物の消費拡大

#### 販路の拡大・適正価格での販売推進

県庁や地域のイベント、JA筑紫金融店舗等で出店販売を実施し、ゆめ畑のPRを図りました。適正価格での販売推進のため、消費者ニーズに合った出荷を目指しています。



#### フードロスの解消

形が揃って出荷に適さない規格外の農産物をゆめ畑のイベント等で販売し、フードロスの解消及び農業者の所得増大に取り組めました。

